

2024年12月12日

株式会社アイキャスト 第37回番組審議委員会 議事録

- 日時： 2024年12月12日(木) 16:00~17:00
- 場所： オンライン会議で実施
- 出席者： 番組審議委員 板東 浩二 様 (委員長)
今別府 亮 様
植田 実 様
トム ペリー 様
池田 昌史 様
中尾 信一 様

アイキャスト 永田 勝美 (代表取締役社長)
荒木 孝広 (取締役経営企画部長)
高橋 佑平 (メディア戦略部 編成担当部長)
和出 誠司 (経営企画部 事業戦略担当部長)
桜庭 正樹 (経営企画部 事業戦略担当課長)
兼子 賢太 (経営企画部 事業戦略担当主任)
小林 慎一郎 (顧問)

■議事内容

1. 放送番組の編集に関する基本計画の変更について

<変更内容>

- ・現在提供中の自主放送チャンネル「ひかり TV チャンネル」について、チャンネル視聴状況や設備・保守等を含めた費用対効果を総合的に鑑みて、2025年4月以降の編成方針を見直す。ボクシング井上尚弥選手世界戦など、ひかりTVの視聴者にとって魅力的なコンテンツは引き続き提供すべきと考え、イベント的番組編成への変更を予定。
- ・上記に伴い、放送法第6条3項にて定める「放送番組の編集に関する基本計画」を変更するため、同項定めのとおり、アイキャスト番組審議委員会にて諮問するものとする。
- ・具体的には、基本計画に定める「放送時間」を下記の通り変更することとしたい。

(変更前)

1. 放送時間

すべての番組につき、一日の放送時間は原則として24時間とする。

(変更後)

1. 放送時間

番組の放送時間の設定にあたっては、当該番組内容と視聴者の年齢、嗜好又は生活時間等を勘案し、視聴者に提供できるよう計画的かつ持続的な番組編成を行う。また、社会的に関心の高い事象が発生した場合には、定時番組の一部を変更又は中止して、当該事象を主題とした特別番組を編成し、提供するなど、番組の編成に弾力性をもたせる。

<質疑応答>

- ・通常番組以外はイベントのある場合のみの放送と理解したが、どのようなものが想定されているか？
⇒ボクシング世界戦、アイドルライブなど Lemino と連携した番組を想定。
- ・今後、番組審議委員会での審議番組はどのようなものになるのか？
⇒これまでのようなドラマなどのような審議番組は無くなるかもしれないが、今後もドコモの編成と連携した番組制作を続けていく。
- ・時代の流れを感じる。自分たちのような放送番組を作っている側からしても番組のパワーがなくなってきたと理解。変わって配信側のイベント、ライブなどがユーザーに受けられているとすると仕方ないことと捉える。
- ・以前のように番組提供会社と共同で番組を作っていくようなことは無くなるのか。
⇒制作した番組を放送するチャンネルが「ひかり TV チャンネル」ではなくなるだけで、制作は続けていく予定。
- ・Lemino での配信となった場合、ひかり TV とは関係ないのか。
⇒著作権としてひかり TV での放送も許諾されていれば提供可能。例えば、「〇〇月間」

として、視聴者が望むコンテンツを編成してひかり TV で提供するようなことはありうる。

- ・番組審議委員会は、オリジナル番組の公序良俗に対する審議をするものだと理解しているが、審議対象がなくなるということか。
⇒番組制作は今後も継続予定なので、番組審議委員会も継続する。
- ・今回の判断は、番組制作の自由度が上がるとみている。また、出口がテレビだけでなく、いろいろな方向を考えて作っていいけるのでは。
⇒新しい番組編成が視聴者に受け入れられれば、将来的に総合編成復活の可能性はある。設備等の負担が重く、一旦このような形を取ることにしたが、自由な発想で新しいコンテンツを生み出していきたい。

上記の通り番組審議委員との質疑応答を実施の上、今回の放送番組の編集に関する基本計画の変更に関する諮問については、審議委員より妥当との答申を得たため、変更を行う。

2. 番組審議

(1) 「大都会 PARTII」 放送直前！ハードアクション SP 特番

- ① 「大都会」は子供のころ「西部警察」となり、今ではみられないど派手なアクションが印象に残っている。若い世代にどう映るのが気になった。若い方の反応など分かれば教えていただきたい。
⇒世代別の視聴結果は取れていない。今の地上波ではとても見れないような仕掛け、そうそうたるメンバーが集まって作った作品、その裏側を話す内容の番組なので、当時を知る世代には非常に刺さる内容になったと考えている。
- ② 今の時代は絶対できないが、だからこそ若い世代に刺さると良いな、と思う。
松田優作は亡くなってからもブームになったりしたが、改めてブームになると良い。切り抜き動画などであれば、今の人たちにも受け入れられるのでは。
- ③ 石原裕次郎生誕 90 年とのことで、そういった節目をとらえて仕掛けていくのはありだと思った。松田優作生誕〇周年など考えても良いのでは？
- ④ 本編は全 132 本とのことだが、今は 1 クールですべてのドラマが終わってしまう。私は太陽にほえろ世代だが、長く続けられるコンテンツは素晴らしい。古い作品の掘り起こしだが、企画としては素晴らしく、コンテンツの注目を上げるのに非常に有用だったのではないか。

(2) ファイターズガール大懇親会 2024

- ① 今回の企画はどのように持ち上がったのか？
⇒GAORA とは毎年連携施策を企画しており、過去には番組の共同制作を行った実績もある。ファイターズは新庄監督やキツネダンスなど話題性が高いコンテンツで、GAORA はファイターズ公式戦中継する関係性があり実現した。
- ② ガールズバンド、ガールズチームは日本の文化としてアメリカでも認知されている。アメリカの地方でもダンスチームが流行る可能性がある。アメリカの文化的に近いのはアメフトのチア。特にダラス地方では競争が激しく、レベルが高い。
- ③ チアガールということでは、野球の「プレミア12」というイベントがあり、前回大会では台湾が優勝した。台湾でもチアが盛り上がるが、台湾の場合はスタジアムに応援席があり、そこでチアガールが踊るといように、国によって特徴が異なるとのこと。
- ④ ファン目線での意見。ファンはリピートするし、グッズを買うので、ファン心をくすぐる仕掛けがあれば、もっと収益性が上がる可能性があると思う。
- ⑤ dアカウント連動キャンペーンの効果はどうだったか。
⇒当初はNTTドコモ北海道支社と連携した告知を行っていくことを模索していたが、その後、dアカウントユーザなら誰でも応募可能という形でドコモ全体との施策連携に変わっていった。募集期間が1週間という短期間であったにもかかわらず定員を超える応募があったのは大きな成果と考える。
- ⑥ 野球は詳しくないが、キツネダンスは知っていた。今回初めてダンスを見たが、番組をみて非常にパワーがあると感じた。ダンスはそれに懸けている人が一定数いるので訴求できる。今後はコンテンツ勝負になっていくので、ニッチなコンテンツ発掘の重要性を感じられた。
- ⑦ キツネダンス、歌など分かりやすいし、見ていて元気が出る。視聴者に喜んでもらえるコンテンツなのだと思う。GAORA など制作能力の高いところと組んでやるのは一つの方法かと思うので引き続きやっていけると良い。

以上